

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

授業で鍛えるコミュニケーション筋力

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

新卒採用で企業が学生に求める資質では、常にコミュニケーション力がトップです。しかし、この資質は学生によっていろいろな意味に解されているようなので、採用選考の視点で説明してみましょう。

グループ・ディスカッションでは無反応者を落とす

近年、初期段階の採用選考で定番となっているのはグループ・ディスカッションです。この選考手法は難易度を自由に設定できますが、基礎的なコミュニケーション力を見るには最適です。その視点の1つは、他者が発言している時に、相づちやうなずきをしながら聴いているか、選考者から見て他者の話の体を使った反応ができていますかです。つまり無反応者を落とす選考と言っても良いでしょう。単純な手法ですが、多くの応募者を効率良く判定できるのです。

傾聴力は引き出す力

社会人基礎力の要素にも入っているせいか、最近の学生の中には自己PRで「傾聴力に自信があります。」という方が増えてきました。カウンセリングを学んだ立場からは、どれだけわかっているのかな?と思いながら尋ねてみると、文字通り相手の話をしっかり聴くということらしいです。しかし、傾聴力というのは、それだけではなく、相手を話しやすくする、更には相手から話を引き出すところまで求められています。つまり相手を心地よく話させる技術や質問力まで求められます。それにはやはり上述の体を使った反応が不可欠なのですが、一所懸命のあまりか無反応になっている学生が珍しくありません。選考者からは聴いているのか聴いていないのか判定不能です。

授業で体を使わせる

こうしたスキルは学生がカウンセリング技術を学べばわかることですが、通常の授業の中でも簡単に鍛えてやることはできると私は思います。例えば、講義の話し方を常に「～についてはどう思う?」と学生に問いかける話し方をするだけでも十分です。実際に学生に回答を求めなくとも、これだけで学生の意識は反応していますし、更に進めるならば、授業の最初に「私の話に納得できたら頷き、納得できないなら首を傾げなさい。これは就活の良い練習になるんだよ。」と伝えておきます。つまり、やり方によっては教師が学生に講義を通じてグループ・ディスカッションや採用面接の鍛錬もできるのです。

こうした体を使った反応は、日頃から使っていないとなかなかできないものです。つまり「コミュニケーション筋力」が未発達なのですね。挨拶に笑顔やアイコンタクト、更には頭脳の回転力、これらは全て筋肉のトレーニングと同じで、使えば使うほど反応が良くなり、刺激によって動かすことでどんどん向上すると私は思います。逆に言うと、使わない筋力は絶対に動きません。体育会出身の私の手法ですが、これはハーバード白熱教室でも法政のような大教室の授業でもかなり有効なものだと実感しています。



略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。

キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

ysuzuki@stage41.com

yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

プロ野球選手という職業

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

東海大学野球部の菅野選手が日本ハムからのドラフト指名を拒否して、浪人生活に入るといふ記者発表がされました。本学からも多数のプロ野球選手が生まれています。ドラフト会議によって交渉球団が決定する方式は、個人の選択の自由を奪うので悪い制度だという批判もあります。しかし、プロ野球をおもしろくするために、長年かかって生み出された制度ですから、それなりに意味があると思います。

私は、プロ野球選手になるとは日本野球機構という企業に就職することだと考えています。各球団は事業部です。事業部が独自に新人を採用するのではなく、企業として採用する仕組みがドラフト会議です。民間企業に採用されるとき、配属先まで自由に選ぶことはできません。プロ野球においても配属先は会社側の都合で決まるものだと考えれば、菅野選手の選択は別のものになっていたかもしれませんね。



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

学生に刺激を与える講義作り

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

講義中、学生の受講態度を変える出来事が3つあった。最初は「論文の輪読」。幼少期に深刻ないじめ被害にあった女性のライフストーリー研究である。学生にとって、改めて「命の尊さ」や「人との関わり」を深く考えさせる機会となった。次に、学生による「研究発表会」。課題レポートへ取り組むにあたり、前期のキャリアデザイン入門で同様の調査を行なった学生による体験発表である。調査仮説の練り方、アポの取り方、まとめ方など、同じ学年の学生が発表しているからこそその緊張感が漂っていた。最後は、私が行なっている「韓国の大学調査の中間発表」。学生にとって、海外の大学生が置かれている厳しい現状を知ることで、「自分たちはどうあるべきか」を考える契機になったようだ。後学期も残すところあと僅かとなってきたが、学生にとって有意義な講義となるよう心がけたい。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

日頃の出来事から学ぶ!

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

特任講師3名の共同研修室が新見附校舎に引越しました。近距離移動といっても手順は全く変わりません。通知を受けた予定日を前に、自分の行動予定や仕事との調整を念頭に計画を立て、荷造りを行い、そして実施日には朝一番からの立会い…。その日から1ヶ月を経て、ようやく落ち着きを取り戻した感があります。

振り返ると、情報を得て状況判断、更に必要な備品の手配や段取りの為に関係者と情報共有や打合せ、そして当日は思わぬ現実即座の判断…。「あれどうなっている?」「あ、あれが無い」などなど、日頃学生達に伝えている考え方や動き方を実感する貴重な機会となりました。「日頃の出来事から学ぶ」の心掛けを大切にしましょう。

◆ 「就業力養成ゼミ」が日経キャリア教育ネットに取材を受けました。

後期よりスタートした有田講師による課外講座「就業力養成ゼミ」が大学教職員のための就業力支援サイト:日経キャリア教育ネットの「キャリア教育の現場から」というコーナーで取り上げられています。

◆ 就職活動講座「自分の基礎能力を知る」の第1日目が行われました。

仕事体験・グループディスカッション・面接体験で構成されたこのプログラムを通じて、受講者の基礎能力を測定しました。2日目には測定結果のフィードバックを行い、オリジナルの就業力測定手法の開発を目指します。

◆ 「就業力 GP」サイトリニューアル

まもなく本学の「就業力 GP」サイトが一部リニューアルいたします。また、教員のブログも新たに開設されます。今後はさらに内容を充実させて参りますので、どうぞご期待ください。

◆ 編集後記: 今年秋は長いせいか、スポーツもいろいろ楽しめたように思います。特にプロ野球は試合以外でも…。

ウチの嫁は筋金入りの巨人ファンですが、ドラフトについては藤村先生と同意見。嫁は何回か転職も経験しているので、「その業種に就職できるか」と「どこに配置されるか」の違いが、より判るのかもしれませんが。【夫はアンチ G】 << 事務局:細田 >>

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3step.hosei.ac.jp/

就業力を育てる**3ステップシステム**
文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」採択プロジェクト